

創世記3章

3:1 さて、神である【主】が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」 3:2 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。 3:3 しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と仰せになりました。」 3:4 そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。 3:5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」 3:6 そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。 3:7 このようにして、ふたりの目は開かれ、それで彼らは自分たちが裸であることを知った。そこで、彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちの腰のおおいを作った。 3:8 そよ風の吹くころ、彼らは園を歩き回られる神である【主】の声を聞いた。それで人とその妻は、神である【主】の御顔を避けて園の木の間に身を隠した。 3:9 神である【主】は、人と呼ばいかけ、彼に仰せられた。「あなたは、どこにいるのか。」 3:10 彼は答えた。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました。」 3:11 すると、仰せになった。「あなたが裸であることを、だれがあなたに教えたのか。あなたは、食べてはならない、と命じておいた木から食べたのか。」 3:12 人は言った。「あなたが私のそばに置かれたこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです。」 3:13 そこで、神である【主】は女に仰せられた。「あなたは、いったいなんということをしたのか。」 女は答えた。「蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べたのです。」 3:14 神である【主】は蛇に仰せられた。「おまえが、こんな事をしたので、おまえは、あらゆる家畜、あらゆる野の獣よりものろわれる。おまえは、一生、腹ばいで歩き、ちりを食べなければならない。 3:15 わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み砕き、おまえは、彼のかかとかみつく。」 3:16 女にはこう仰せられた。「わたしは、あなたのうめきと苦しみを大いに増す。あなたは、苦しんで子を産まなければならない。しかも、あなたは夫を恋い慕うが、彼は、あなたを支配することになる。」 3:17 また、人に仰せられた。「あなたが、妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、土地は、あなたのゆえにのろわれてしまった。あなたは、一生、苦しんで食を得なければならない。 3:18 土地は、あなたのために、いばらとあざみを生えさせ、あなたは、野の草を食べなければならない。 3:19 あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついに、あなたは土に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたはちりだから、ちりに帰らなければならない。」 3:20 さて、人は、その妻の名をエバと呼んだ。それは、彼女がすべて生きているものの母であったからである。 3:21 神である【主】は、アダムとその妻のために、皮の衣を作り、彼らに着せてくださった。 3:22 神である【主】は仰せられた。「見よ。人はわれわれのひとりようになり、善悪を知るようになった。今、彼が、手を伸ばし、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きないように。」 3:23 そこで神である【主】は、人をエデンの園から追い出されたので、人は自分がそこから取り出された土を耕すようになった。 3:24 こうして、神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東に、ケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた。

導入

これまでの創世記1-2章の学びで、大切なことをいくつか学びました。

1. 神は、24時間 x 6日間でこの世をお造りになりました。
2. 神は、ご自身の被造物である人のためにこの世をお造りになりました。

3. 神は、ご自身と関わらせるために人を造られました。神は人にたったひとつの規則を与えられました。その規則とは、善悪の知識の木の実を食べてはならないというものでした。神は、この木以外に、実を取って食べられるあらゆる木をふんだんに与えてくださいました。

唯一の規則に背くと、死ぬこととなります。

4. 神は、ご自身の被造物を管理して支配するように人に仰せになりました。人は、園の世話を命じられたのです。つまり、働くことです。ですから、仕事は罰ではなく、喜びでした。
5. 神は、女を男からお造りになりました。それは、神に造られた男を支え補う役に女がなるためです。これは、神が決められたことです。

助け手と訳されたヘブル語の言葉は、「助けを受ける人に足りない部分を補う人」という意味です。

6. 神が造られたすべてのものは、良い状態でした。男も女も悪を知りませんでした。ふたりは完全に無垢で、まったく罪がありませんでした。
7. 神は、7日目を休息と内省の日としてお造りになりました。体を休め、創造と贖いに思いを巡らす日です。

この7つの事柄を念頭に、創世記3章の学びに入りましょう。

創世記3：1で、新たな被造物が登場します。ここでは、「蛇」と呼ばれています。聖書の他の箇所では、サタン、ルシファー、悪魔と呼ばれます。

この被造物は何者で、どこから来たのでしょうか。

これについては、エゼキエル書28章を読む必要があります。

28:12 「人の子よ。ツロの王について哀歌を唱えて、彼に言え。神である主はこう仰せられる。あなたは全きものの典型であった。知恵に満ち、美の極みであった。 **28:13** あなたは神の園、エデンにいて、あらゆる宝石があなたをおおっていた。赤めのう、トパーズ、ダイヤモンド、緑柱石、しまめのう、碧玉、サファイヤ、トルコ玉、エメラルド。あなたのタンバリンと笛とは金で作られ、これらはあなたが造られた日に整えられていた。 **28:14** わたしはあなたを油そそがれた守護者ケルブとともに、神の聖なる山に置いた。あなたは火の石の間を歩いていた。 **28:15** あなたの行いは、あなたが造られた日からあなたに不正が見いだされるまでは、完全だった。

この箇所から、サタンについて4つのことがわかります。

1. 神はサタンを完全な被造物として造られました。非常に美しく、あらゆる宝石がサタンをおおっていました。（12-13節）
2. サタンは、知恵に満ち、美の極みでした。（12節）
3. サタンは、神の聖なる山を守る守護天使として油注がれました。（14節）
4. サタンが造られた後、いつかの時点でサタンのうちに罪が見出されました。（15節）

サタンがどのように罪に汚されたかについては、イザヤ書14：12-15を読まなければなりません。

14:12 暁の子、明けの明星よ。どうしてあなたは天から落ちたのか。国々を打ち破った者よ。どうしてあなたは地に切り倒されたのか。 **14:13** あなたは心の中で言った。『私は天に上ろう。神の星々のはるか上に私の王座を上げ、北の果てにある会合の山にすわろう。 **14:14**

密雲の頂に上り、いと高き方のようになろう。』 14:15 しかし、あなたはよみに落とされ、穴の底に落とされる。

サタンが罪に汚される過程については、この個所の「私は…しよう」という部分を見ればわかるでしょう。

そこには5つのことが記されています。

サタンは天を我がものとし、神のようになることを望みました。

つまり、神に成り代わろうとしたのです。

その心は、高慢な野望に満ちていました。

しかし、サタンのもくろみはうまくいくはずがありません。神がすべてご存じだからです。聖書は、神が全知のお方だと教えます。

神はサタンの態度を「罪」と呼ばれました。

神は完全なお方ですから、サタンの罪を看過することはできませんでした。

完全という性質は、不完全の欠如を必要とします。

聖書は、神について3つのことを繰り返し語ります。

1. 正義なる正しい神は、不正に関わることはできない。
2. 神の神聖さは、罪に猶予を与えない。
3. 神は罪のないお方なので、ご自身の御前に罪があることに耐えられない。

サタンの罪に対し、神はすぐさま対処されました。では、エゼキエル28：16-17を読みましょう。

28:16 あなたの商いが繁盛すると、あなたのうちに暴虐が満ち、あなたは罪を犯した。そこで、わたしはあなたを汚れたものとして神の山から追い出し、守護者ケルブが火の石の間からあなたを消えうせさせた。 28:17 あなたの心は自分の美しさに高ぶり、その輝きのために自分の知恵を腐らせた。そこで、わたしはあなたを地に投げ出し、王たちの前に見せものとした。

3章1節を学び始める前に、サタンが霊の世界に属していることを私たちは知らなければなりません。人の目に見える働きをするためには、その働きをするための肉体が必要です。3章の場合、サタンは蛇の体をその器に選びました。神がサタンとサタンに用いられた動物とに下された裁きの個所を理解する上で、これは重要なポイントです。

サタンについて少し情報を得ましたので、創世記3：1の学びに戻りましょう。

1. 神のことばを疑うよう、サタンがエバをそそのかす。(1節)

エデンの園にいるエバにサタンがまず言ったのは、神のことばに「疑念」を抱かせる内容でした。

原語のヘブル語に使われた言葉は、日本語に訳された言葉よりもっと意味合いの強いものです。

サタンはエバを誘惑するために、神のことばを言い換えていることに注目してください。エバがどんな木からも食べることを神が禁じられたような言い方をしています。しかし、実際には、実を食べるのを禁じられていたのはたったひとつの木だけでした。

サタンが今も健在で働きかけていることを、私たちが認識するのはとても大切なことです。サタンは、人が神のことばを疑うよう仕向けることに注力します。しかも、巧妙に働きます。2-3節で、エバはサタンの言葉を正し、園のひとつの木を除いてはどの木から食べてもよいと説明しようとしています。

しかし、エバはここでひとつ過ちを犯します。それは、神のことばに追加してしまったことです。

追加した言葉は、「それに触れてもいけない。」でした。

なぜエバが神のことばに禁止事項を追加したのか、理由は定かではありません。

神に禁止された内容をアダムがエバに伝えたときに、あまりに強い調子で言われたので、エバが自らを守るつもりでそのようなことを付け加えたのかもしれませんが、それでも、追加したことに変わりありません。

2. サタンが、禁断の実を食べた結果について嘘をつき、食べると神のようになれるという恩恵があるように吹き込む。(4-5節)

サタンは、神のことばを疑わせるだけでは飽き足らず、今度は、神のことばを否定します。サタンは神をうそつき呼ばわりしています。神がエバにあれこれ知られ過ぎるのを恐れてその木から食べるのを禁じたのだ、とほのめかします。サタンは真実に誤りを織り交ぜることで、エバを混乱させました。

彼らの目が開かれて善悪を知るようになるという部分は真実でしたが、神の特質を受け継いで神のようになるという部分は間違いです。

サタンは、禁断の実を食べると結果が伴うことを否定しました。神に反抗した自分自身のなれの果てを知っていたにもかかわらず、そうしたのです。

イエスがサタンを「偽りの父」と呼んだのも、もったもです。

ヨハネ 8:44 あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。

イエスはサタンを「初めから人殺し」と呼びます。それは、サタンの嘘がアダムとエバを死に追いやったからです。

人類の死は、突き詰めるとこの章に記された出来事に起因します。ですから、サタンは史上最悪の大量殺人鬼と言えます。

この個所でも、イエスが創世記3章を史実と認めておられることがわかります。

このように、サタンの手段は三段階に分かれていました。

1. 神の知恵、正義そして愛に対する疑念を抱かせる。
2. 神のことばに真っ向から反対する。
3. 神に背くことがこの上なく良い結果を生み出すと主張する。

私たちの生きる現代社会においても、サタンのやり方に目を向けると、その方法は同じであることがわかります。

3. エバとアダムがサタンの誘惑に屈する。(6節)

6節で、エバに罪を犯させた要因が3つ記されています。

1. 肉の欲—その木は食べるのに良かった。
2. 目の欲—目に慕わしかった。
3. 暮らし向きの自慢—賢くなりたいという願い。

ヨハネはヨハネ第一2：15-17で、サタンは今も創世記3章の時代と変わらず同じ方法で人を誘惑していると語ります。

2:15 世をも、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているなら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。 2:16 すべての世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものではなく、この世から出たものだからです。 2:17 世と世の欲は滅び去ります。しかし、神のみこころを行う者は、いつまでもながらえます。

こうして、エバは神のことばに背いて実を食べ、その直後、アダムにもそれを食べるよう勧めたので、アダムも食べました。

アダムとエバは、神が本当のことをおっしゃっているのでサタンは嘘つきだ、と言えたはずなのに、神ではなくサタンの言葉を信じる道を選んでしまいました。神からの明確な指示に背き、悪魔率いる反逆軍に加わってしまったのです。

ヤコブ4章は、この世と友になることを選ぶ人は、神の敵であると述べます。(サタンの影響を受け、サタンの支配下にある世の中という意味です。)

アダムとエバは、禁じられたものを試すために、純粋で完ぺきな世界を手放しました。

4. アダムとエバの背きが招いたひとつめの結果 (7-節)

まず、ふたりは自分たちが裸であることに気づき、恥ずかしさを覚えました。創世記2：25を見ると、「人とその妻は、ふたりとも裸であったが、互いに恥ずかしいと思わなかった。」とあります。

ふたりの神との関係は、明らかに変わりました。

ふたりは裸であることを覆い隠そうと、いちじくの葉を綴り合せて覆いを作りました。

なぜ彼らは裸の姿を隠そうとしたのでしょうか。

見かけを取り繕えば、神がお気づきにならないと思ったのでしょうか。

これが、墮落した世の中で物事を正そうとする人間の試みです。

しかし、いちじくの葉で問題を解決しようとしても、うまくはいきません。

体裁を整えたところで、不従順という内面の問題を正すことはできません。完全な状態は壊され、心には罪悪感が残ります。

逃げ隠れするのは罪のある人だけです。アダムとエバはまさにそのようにしました。

5. 背いたふたりに神が直接問いただされる。(9-13節)

神はアダムに呼び掛けられますが、アダムは隠れています。アダムを見つけようと神は、「あなたは、どこにいるのか。」とおっしゃいました。

神は、アダムがどこに隠れているのかご存知でしたが、アダムが背いたことを自発的に悔い改めるよう導こうとなさいます。

アダムは、自分が裸なので隠れていると白状しました。

神は、なぜアダムが裸なのか問い詰められます。すると、アダムは責任のなすり合いを始めます。自分が神に背いたことを認めようとせず、エバのせいにしたのです。

アダムが言っているのはこういうことです。神さま、これはあなたのせいです。あなたがあの女を造ったから悪いのです。そうでなければ大丈夫だったのに。私のせいではありません。エバがぜんぶ悪いのです。

神は次にエバを問い詰められます。すると、エバも責任のなすり合いを続けます。エバは、自分の責任ではない、悪いのは蛇だと言います。蛇に騙されたのだから、私が背いたのはすべて蛇のせいだと言います。

6. 神がサタン、アダムとエバ、そして神の造られた世界に対する裁きを宣言される。(14-19節)

a) サタンに対する裁き (14-15節)

蛇という動物はサタンに取りつかれていましたが、神はサタンとともに蛇も罰せられます。

動物に道徳観は備わっていませんが、動物は人の益となるために造られました。ですから、人に害を及ぼすと、害が返ってきます。

創世記9：5 わたしはあなたがたのいのちのためには、あなたがたの血の価を要求する。わたしはどんな獣にでも、それを要求する。また人にも、兄弟である者にも、人のいのちを要求する。

サタンのみでなく、騙しの手先となった動物も神が裁かれることが重要でした。

蛇は神に呪われたとあります。蛇の姿や動き方が神によって変えられました。呪われる前は、蛇の姿かたちも動き方も違っていたということです。そのときの写真や絵はありませんが、ずいぶん違う姿だったことは確かです。

呪いには、一生這いつくばって地面のちりを食べるという内容が含まれていました。実際、蛇はちりを食べます。先の割れた舌をちよろちよろ出すのは、先の割れた部分でちりを取り、口の中にあるヤコブソン器官と言われる部分に運ぶためです。しかし、蛇の栄養になる食べ物は、生きた動物です。生きるために殺すのです。(ヨハネ8：44)

蛇を呪った後で、神は問題の根源に迫られます。サタンそのものです。サタンが蛇を操った霊だからです。

神は、サタンと女の間、また、サタンの子孫と女の子孫との間に、「敵意」を置くとおっしゃいました。

ここにある「彼」とは女の子孫のことですが、その彼は、サタンの頭を踏み砕き、サタンは彼のかかとかみつくとあります。

これはどういうことでしょうか。

文字通りの話をするなら、蛇を殺す方法のひとつは、頭を踏みつけてつぶすことです。しかし、足を下ろすときに、蛇が頭を上げてかかとかみつくと可能性もあります。毒

性のない蛇なら、かみつかれた痕が残るだけで致命傷ではありません。一方、蛇の頭をつぶせば、それは蛇にとっての致命傷です。

しかし、ここにはもっと深い意味があります。それは、蛇の後ろにいる悪者に関することです。

過去50年ほどの近代の聖書学者は、この箇所を、最初の「救いの預言」と見なします。

もっと簡単な言葉に言いかえると、こういうことです。未来のいつかの時点で女の子孫から男の子が生まれます。ここで、その子が誰であることを明らかにしましょう。女の子孫という部分に注目してください。男の子孫や人間の子孫とは言っていません。ですから、聖書はここで、いつか未来に起こる女だけを介した超自然的な誕生を示唆しているのです。

これは明らかに、マリヤが選ばれてイエスを産んだ処女受胎を指し示しています。神の聖霊が働いて、マリヤという女に子を宿しました。この場合、男ではなく、確かに女の子孫と言えます。このような方法で生まれたと聖書に記録されているのは、唯一、神の御子イエス・キリストのみです。

この男の子がサタンの頭を踏み砕くと聖書は語ります。

これは致命傷です。聖書は、サタンは男の子に傷をつけるが、かかとの怪我だけだとも語ります。このような傷はいずれ治ります。

ですから、これが聖書における最初の救いの預言であることは明らかだと言えるでしょう。神は、サタンを滅ぼすために、超自然的な方法で誰かをこの世に遣わそうと約束しておられます。

b) エバ（女）に対する裁き（16節）

神はエバに、出産に大きな苦しみが伴うようになるとおっしゃいました。

メアリー・カッシアンは自著「女性、創造、墮落」の中でこう記します。

「出産は苦痛です。一人目の子どもが産まれる前から、そのことは読んで知っていました。けれども、陣痛の激しい痛みは覚悟していた以上でした。経験したことのない人に陣痛の痛みをわからせることはできません。」

痛みの専門医の中でも権威あるロナルド・メルザック医師は、陣痛の激しさについての研究を最近終えました。その研究結果、平均して陣痛の痛みはあらゆる痛みの中でももっとも激しい痛みに分類されることがわかりました。

エバとすべての女性に対する裁きは、明らかに非常に厳しいものでした。

しかも、それだけではありません。

「あなたは夫を恋い慕うが、彼は、あなたを支配することになる。」とあります。

これはどういう意味でしょう。

まず、「恋い慕う」という言葉の意味を理解する必要があります。「恋い慕う」という言葉はロマンチックな響きがありますが、ヘブル語では、この内容からとても否定的な意味があり、後に出てくる「支配する」と合わさって、とても強い意味合いがありました。

同じヘブル語の単語が創世記4：7で使われています。

創世記 4:7 あなたが正しく行ったのであれば、受け入れられる。ただし、あなたが正しく行っていないのなら、罪は戸口で待ち伏せして、あなたを恋い慕っている。だが、あなたは、それを治めるべきである。」

神はカインに、罪が彼を恋い慕っているが、それを治めるべきだと警告しておられます。

このヘブル語の恋い慕うというのは、恋い慕う気持ちを支配する意志に必ず阻まれます。

ユダヤ人神学者フルクテンバウム博士は、次のように言います。

「女の罰は、従属の立場に置かれたことである。3章16節の時点で、女は夫を従えようと願うが、夫が女を従えるのである。女は夫に対して権威を持つことを望む。これは、罪がカインを従えようとしたのと同じである。罪が入る前から、男はすでに女に対する権威を持っていた。しかし、女が男に逆らい、男を従えようとする傾向を持つようになったのである。」

つまり、罪が入る前の婚姻関係は完全でしたが、今では妻を制御するのはたいへんだということです。（奥さんたちは今の言葉に敏感に反応したでしょうか。）

c) アダムに対する裁き（17-19節）

先週の個所で、神がアダムに美しい園の管理という仕事を与えられました。これは苦役ではなく、とても喜ばしい務めでした。神は、被造物の支配権をアダムに与えられました。すべてはすばらしい状態でした。園には雑草ありません。

神は、土地を呪うことでアダムを罰せられました。土地がアダムに抵抗するのです。いばらやあざみが生え始めます。アダムが地を従えるのは、常に戦いを強いられる重労働となりました。

この呪いは、ローマ8：18-22でも確認されています。

8:18 今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。 **8:19** 被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現れを待ち望んでいるのです。 **8:20** それは、被造物が虚無に服したのが自分の意志ではなく、服従させた方によるのであって、望みがあるからです。 **8:21** 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。 **8:22** 私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともにうめきともに産みの苦しみをしていることを知っています。

この呪いの最後の部分は、肉体の死です。（19節後半）

この死という概念で今日のメッセージを締めくくりたいと思います。しかし、敗北、死の恐ろしさ、愛する人との別れという暗いイメージではなく、肯定的なイメージです。

死に肯定的な部分があるでしょうか。

ある意味で、肉体の死は人間に益をもたらします。罪の中で永遠に生きるという最悪の事態を防ぎます。

永遠に罪の中に生きること以上に恐ろしいことがあるでしょうか。

次に、もっとも重要なことは、死によって贖いが可能になります。神であり人であるイエス・キリストの肉体の死をとおして、贖いが可能になりました。このお方は、十

十字架で死なれました。それは、私たちが最後の敵である死そのものから自由になるためです。

神は人類を深く愛してくださったので、アダムとエバを呪われたにもかかわらず、彼らの問題の解決策も備えてくださいました。

アダムとエバは呪われましたが、イエス・キリストが全世界の罪の罰を負って、十字架にかかってくださいました。

ヨハネ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

誰もがいずれ死に直面します。しかし、イエスを救い主として受け入れ、このお方を愛しているなら、イエスとともに過ごす永遠のいのちへの入口として死に向き合うことができます。

死は、死も罪もない「天国」という場所への入口なのです。

あなたは今日、イエスを信じますか。